

蓄圧式消火器と加圧式消火器

消火器は、[蓄圧式]と[加圧式]の2つに分類されています。

蓄圧式消火器は、製造工程で容器内にガスを封入しており、常に容器内に圧力がかかっています。使用時にレバーをにぎると内管の弁が開き、そこに圧力によって薬剤が流れ込み、噴射されます。ガスの圧力は、圧力計で容易に確認することができます。

加圧式消火器は、内蔵してあるガスボンベが使用時に開封されることで、容器内部にガスが放出され、それによって薬剤を噴射します。

蓄圧式消火器と加圧式消火器、その構造の違いが特長の違いにもつながっています。

蓄圧式消火器の特長

- 安全性に優れ、破裂リスクが少ない。
- 圧力計を見れば、使用可能な消火器かどうか一目瞭然。
- 握力のない人でも一定量を持続して放射できるので安心。



加圧式消火器の特長

- 高いガス圧で一気に薬剤を放射し消火できる。



蓄圧式消火器の特長

■ 10年以上、工場出荷時の適正圧力を保持できる基準で製造



設計標準使用期間は10年。

【高耐食・耐久性のSUS製指示圧力計】

サビ等の劣化に強いSUS(ステンレス鋼)素材を指示圧力計に使用。

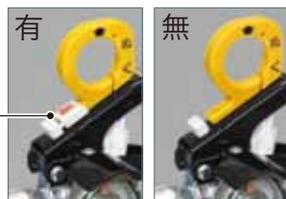
【ヘリウムリーク試験による全数検査】

最新鋭装置によるヘリウムリーク(圧力漏れ)試験の合格品のみを出荷。

■ 安全・高品質を追求



封ロック



【セルフシール機構による高性能ダブルパッキン】

万一、気密漏れしてもリング部が移動して第二シール部を形成し、高い気密性をキープ。

【封ロックを採用】

安全栓が抜けたことがひと目でわかる「封ロック」を採用。

正常な状態(左)から、安全栓が一度抜かれると「封ロック」が取れ(右)、正常でないことが一目瞭然になります。

安全性

常に圧力がかかっているため、容器が劣化している場合も破裂リスクが少なく安全。

確実性

指示圧力計(ゲージ)の針が規定部分にあれば確実に消火能力を発揮。

放射性

レバーを握ると同時に消火薬剤を放射。均一な圧力で安定した放射が可能。

環境配慮

圧力源にCO₂ではなく、環境に負荷がかからない窒素ガスを使用。

操作性

弱い力でもレバー操作ができ、放射・ストップが自由自在。

耐候性

容器内の圧力が温度変化に影響されにくいいため、寒冷地でも正常に使用可能。
(-30℃まで対応)